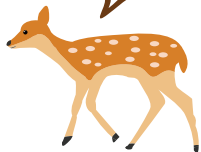


世界遺産と国宝

奈良には3つの
世界遺産があって、
世界遺産登録数が
全国1位なんだよ。



奈良県は、日本が国家としての形を作り始めた時代の都であり、大陸からのさまざまなものを受け入れて、独自の多様な文化を作り上げてきました。そうした奈良の歴史遺産や文化が先人から受け継がれ、今日にいたるまで大切に守り伝えられてきています。現在では日本だけでなく、国を越えた宝として次世代に受け継いでいくべきものとして世界に認められ、世界遺産に登録されています。現在、日本には23件の世界遺産が登録されていますが、そのうち3つの世界遺産（「法隆寺地域の仏教建造物」「古都奈良の文化財」「紀伊山地の霊場と参詣道」）を奈良県が有しています。また国宝の「彫刻」74件、「建造物」64件、史跡名勝天然記念物の総件数146件で、いずれも全国1位となっています。（文化庁「国宝・重要文化財等都道府県別指定数一覧」）。

法隆寺地域の仏教建造物 1993年12月登録

法隆寺地域は世界最古の木造建築が数多く残されており、7世紀初期に創建された法隆寺は世界最古の木造建築として広く知られています。法起寺も706年の完成当時の姿のまま現在に残る日本最大最古の三重塔を有しています。

古都奈良の文化財 1998年12月登録

奈良が日本の首都であった頃、奈良は中国や朝鮮半島との交流を通じて日本文化の原型を作り上げました。当時の木造建築の遺構や周囲に造営された社寺の境内など、当時を偲ばせるものが今でも多く残されています。

紀伊山地の霊場と参詣道 2004年7月登録

太古の昔から神々が鎮まる特別な場所として伝えられ、千年以上にわたって日本の宗教文化の発展に影響を与えてきました。吉野、大峯、高野山、熊野という霊場に点在する社寺や、手つかずの自然が残されています。

インバウンドで活性化する奈良県



猿沢の池と興福寺五重塔



ならまち

シルクロードの終着点でもあり、日本の初代天皇である神武天皇が即位された古都奈良。日本国内の観光地として名高い奈良県は、平成30年に観光客数が4,421万人となり、平成26年と比較すると610万人の増加となりました。その中でも、外国人観光客は平成30年の統計では258万人となっており、平成26年の66万人と比較すると192万人の増加となっています。この大幅な外国人観光客の増加に比例するように、平成30年の観光客消費額は1,786億円と平成26年と比較すると534億円の大幅な増加となりました。奈良県は昔から観光業で賑わっていますが、この流れを受けて更に大きく飛躍する時が来ています。（県インバウンド・宿泊戦略室「奈良県観光客動態調査」、日本政府観光局（JNTO）「訪日外客数」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」、法務省「出入国管理統計」）

